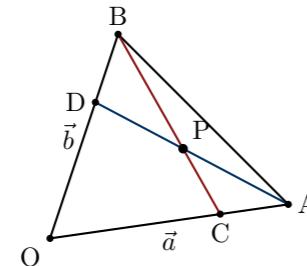


1. 交点の定番解法（2通りで表す）

2 直線 AD, BC の交点 P の位置ベクトルを求める問題は、ベクトルで最も重要なパターンの 1 つである。「P は直線 AD 上にある」かつ「P は直線 BC 上にある」という 2 つの情報を数式にして連立する。

例題 1 (交点の位置ベクトル)

$\triangle OAB$ において、辺 OA を $5:2$ に内分する点を C 、辺 OB を $2:1$ に内分する点を D とする。線分 AD と BC の交点を P とし、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。 \overrightarrow{OP} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。



2. メネラウスの定理（検算の魔法）

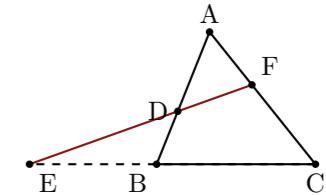
記述試験では係数比較（左の解法）を書くべきだが、答えだけ求めたい場合や検算には図形の性質を使うと圧倒的に速い。

メネラウスの定理

右図のような形（キツネ型）において、一筆書きの要領で比を掛けると 1 になる。

$$\frac{CE}{EB} \times \frac{BD}{DA} \times \frac{AF}{FC} = 1$$

※頂点 → 分点 → 頂点... と回る



例題 2 (比の計算と検算)

例題 1について、メネラウスの定理を用いて $AP : PD$ および $BP : PC$ を求めよ。また、その比を用いて \overrightarrow{OP} を求め、例題 1 の答えと一致するか確認せよ。

確認テスト (A: 基本)

確認テスト (B: 標準)

練習 A1 (交点の計算)

$\triangle OAB$ において、辺 OA の中点を C 、辺 OB を $1 : 2$ に内分する点を D とする。線分 AD と BC の交点を P とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とするとき、 \overrightarrow{OP} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。

Memo / Answer

練習 B1 (面積比)

練習 A1 の設定において、以下の線分の比を求めよ。

- (1) $AP : PD$
- (2) $BP : PC$

Memo / Answer

練習 B2 (一直線上の点)

$\triangle OAB$ において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。 $\overrightarrow{OP} = 3\vec{a} + 4\vec{b}$ であるとき、直線 OP と線分 AB の交点 Q の位置ベクトル \overrightarrow{OQ} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。

(ヒント: Q は OP 上の点なので $\overrightarrow{OQ} = k\overrightarrow{OP}$ 。また Q は AB 上にあるので係数の和が...?)

Memo / Answer

解答 A

Memo / Answer

A1 解答:

$$\vec{c} = \frac{1}{2}\vec{a}, \vec{d} = \frac{1}{3}\vec{b}.$$

(1) P は AD 上: $\vec{p} = (1-s)\vec{a} + s\vec{d} = (1-s)\vec{a} + \frac{1}{3}s\vec{b}$. (2) P は BC 上: $\vec{p} = (1-t)\vec{c} + t\vec{b} = \frac{1}{2}(1-t)\vec{a} + t\vec{b}$.

連立方程式: $1-s = \frac{1}{2}(1-t), \quad \frac{1}{3}s = t$. 代入して $1-s = \frac{1}{2}(1-\frac{1}{3}s) \implies 2-2s = 1-\frac{1}{3}s$.

$$1 = \frac{5}{3}s \implies s = \frac{3}{5}.$$

$$\text{よって, } \vec{p} = (1-\frac{3}{5})\vec{a} + \frac{1}{3} \cdot \frac{3}{5}\vec{b} = \frac{2}{5}\vec{a} + \frac{1}{5}\vec{b}$$

解答 B

Memo / Answer

A1 の計算過程を利用する.

(1) AP : PD

P は線分 AD を $s : (1-s)$ に内分する点である. A1 より $s = \frac{3}{5}$ なので,

$$AP : PD = s : (1-s) = \frac{3}{5} : \frac{2}{5} = 3 : 2$$

(2) BP : PC

P は線分 BC を $t : (1-t)$ に内分する点である. (注意: \vec{b} の係数が t) $t = \frac{1}{3}s = \frac{1}{3} \cdot \frac{3}{5} = \frac{1}{5}$. C から B へ向かうベクトルで考えたとき, C 側の比率が t . つまり $CP : PB = t : (1-t) = 1 : 4$. あるいは $\vec{p} = (1-t)\vec{c} + t\vec{b}$ の係数を見て, $BP : PC = (1-t) : t = \frac{4}{5} : \frac{1}{5} = 4 : 1$.

Memo / Answer

B2 解答:

Q は OP 上にあるので, $\vec{OQ} = k\vec{OP} = 3k\vec{a} + 4k\vec{b}$. Q は AB 上にあるので, 係数の和が 1.

$$3k + 4k = 1 \implies 7k = 1 \implies k = \frac{1}{7}.$$

$$\text{よって, } \vec{OQ} = \frac{3}{7}\vec{a} + \frac{4}{7}\vec{b}$$